

略 歴

内田 武志 うちだ たけし 1909～1980

- 明治42年 尾去沢釜山内田修三の二男に生まれ、父の勤務地、碓氷電所社宅に住んだ。
- 大正12年 鎌倉に転居するが関東大震災で家が全壊し、1年後に静岡へ移転した。静岡商業学校に入学し、発病し退学した。この頃、詩人の蒲原有明と知り合い、柳田国男・渋沢敬三の指導を得て民俗学の研究を続けた。
- 昭和20年 戦争激化により、母方の郷里鹿角郡毛馬内の高橋家に疎開。毛馬内町長の伊藤良三と出会い、真澄研究に弾みをつけた。
- 昭和21年 妹八子と秋田市に転居し、菅江真澄研究会を設立。後、真澄研究の集大成ともいわれる難事業『菅江真澄全集』を出版した。55年死去・享年71歳。

豊口 鋭太郎 とよぐち えいたろう 1873～1952

- 明治6年 毛馬内、豊口木曾弥（鹿角郡内小学校長・県議）の長男として出生。
- 28年 秋田県尋常師範学校卒業。
- 33年 大湯小学校長（27歳）、38年毛馬内小学校長となった。
- 43年 秋田県師範学校付属明德小学校首席訓導に抜擢された。
- 大正・昭和 旭南・横手・大曲各小学校長や県視学を歴任して昭和5年退職。
- 昭和初期 日赤秋田支部主事兼愛国婦人会秋田県支部主事として支部再建に尽力した。
- 11年 秋田県教育会長、帝国教育会理事となり教育界問題解決に手腕を揮った。
- 22年 病に倒れ帰郷して療養していたが、27年死去。享年79歳。

種市 霊山 たねいち れいざん 1882～1945

- 明治15年 鹿角郡毛馬内に三平・ミキの長男に出生、書の上りな子として知られる。
- 33年 東京市私立日比谷中学校卒業。大湯小学校に代用教員として一年間勤める。
- 38年 秋田県小学校本科正教員の免許状を受け郡内各小学校に大正7年まで勤務。
- 43年 文部省より習字科中等教員、大正2年同じく修身科の免許を受ける。
- 大正7年 和歌山県立日高女学校に出向。同11年まで勤務。
- 11年 秋田県立大館中学校に勤務、漢文と書を教える。一時寄宿舎々監を兼ねる。
- 昭和6年 辞職後1年間囑託、若い時から広く能書家の定評あり晩年専門書家として活躍。昭和20年死去63歳。作品は東北、主に毛馬内・大館に現存する。

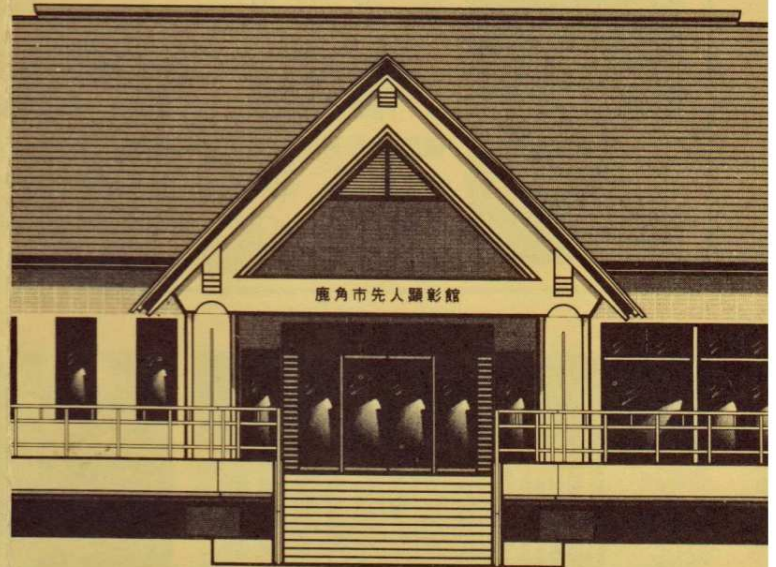
新しい文化を築いた人々…

先人顕彰シリーズ⑦

●内田武志・豊口鋭太郎・種市霊山

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集、保存、事跡の調査研究と公開展示をいたしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順次展示紹介してまいります。



鹿角市先人顕彰館 TEL・FAX 0186-35-5250

〒018-53 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地の2



内田 武志

うちだ たけし
1909~1980

民族学と菅江真澄の研究者

本名は武。昭和5年『民俗学』に“年中行事・鹿角郡宮川村地方”を初めて発表。昭和11年、『鹿角方言集』を刊行。

20年鹿角の毛馬内に疎開してから菅江真澄研究に没頭。21年柳田国男・渋沢敬三の賛助を得て「菅江真澄研究会」を設立した。編著書に『菅江真澄遊覧記』『菅江真澄全集』（全13巻・宮本常一との共編・訳）があり、真澄研究の第一人者である。

武志が病床に伏したまま研究を続けられたのは、妹・ハチの献身的援助の功績が大きい。29年ハチと共に秋田市文化賞、42年県の文化功労賞、50年柳田国男賞を受賞した。



豊口 鋭太郎

とよぐち えいたろう
1873~1952

県の教育振興に貢献

27歳の若さで大湯小学校長、ついで毛馬内小学校長となり、間もなく師範学校付属明德小学校の首席訓導に招かれ、近代教育確立期の指導者として活躍した。その後、県内小学校長・視学等を歴任して優れた教育実践と特色ある学校経営を展開し、初等教育研究の中心に立ってこれを推進した。

後に秋田県教育会長に選任され、会の改革、教育会館建設、ヘレンケラー来秋の実現等教育行政面でも敏腕を振るい、教育振興に多大の貢献をした。更に帝国教育会理事として昭和12年東京で開催の世界教育会議を運営し成功に導いた功績は大きい。



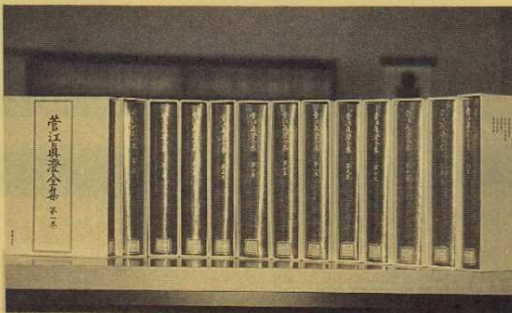
種 市 霊 山

たねいち れいざん
1882~1945

スケールの大きい気骨の書家

本名は直三。幼時、同郷の豊口辨司べんじに書を教わる。町の書家辨司は明治の書家長三州さんしゅうに心酔、従つって顔真卿がんしんけいの書風を取り入れた三州の筆意が霊山の書の基本となった。内藤十湾は尊敬する吉田晩稼おのつとむの書を毛馬内の人達に勧め、霊山も一時晩稼の書風に親しんだ。

晩年、王おう之しを学んだ内藤湖南りくちように魅かれ、驚くほど湖南に似て高雅な書風を展開した。六朝りくちようの筆意を骨子としたスケールの大きさは定評のある所、別号に霽々山人あしあらい、林泉老人。酒盃さかづきに親しみ酒量群を抜く。花輪幸稻荷神社前の巨大な石碑は霊山の書。



菅江真澄全集



豊口家自宅庭園



霊山筆六曲屏風